

Club de Amigos de Latinoamérica de Osaka



Amigos



NO.129

ともだち

2022年 7月

ラマス市の小学校に算数ドリルを贈りました

＝なぜサンマルティン県ラマス市の小学校に？＝



昨年度に CALO の事業活動を縮小することになり、算数ドリルの印刷はしませんでした。しかし、一昨年度、ペルーの学校では新型コロナウイルス対策のため、全ての授業はオンラインとなり印刷したドリルを配布できませんでした。一昨年度に配布できなかったドリルをラマ市の学校で配布をしたことは前回のアミゴスで報告をしました。

しかし、まだ残っていた算数ドリルと絵本があったため、ペルーの北部にある、「サンマルティン県のラマス市」に初めて算数ドリルと絵本を配布することになりました。

今までは、ペルーのラマ市郊外にある貧困地区の学校を中心に支援していました。首都のラマ市では貧富の差がまだまだ存在していますが、他の地方に比べるとまだ教育へのアクセスは可能となってきています。もちろん貧富の差があるため、学校の施設、受けられる教育の資質にも差があります。しかし、今回余っていた算数ドリルをラマ市以外の都市に提供したいと、特に教育へのアクセスがまだ不十分である地方の学校に配布することを決めました。そこで、ペルーの現地スタッフであるジャネットさんに依頼し、提供できる学校を探してもらいました。

CALO の現地スタッフであるジャネットさんは 20 年くらい前、小さいころに「ラマス市」で生活していて、ラマスについての情報や学校の情報には詳しく、紹介してくれました。

大阪ラテンアメリカの会 (CALO) 〒562-0026 大阪府箕面市外院 3-12-6 (梶田方)

HP <http://calo.whitecafe.jp/>

FAX:072-728-6636

銀行口座:三井住友銀行 箕面支店 普通 0429270

郵便振替:00980-0-57563

＝配布した学校とその地域について＝

<2 言語で学ぶ小規模学校>

今回支援した学校は生徒数 172 人の小規模の学校でイス アルベルト ブルッソネ ピサロといひます。

この学校は少し特殊な学校です。この地域で昔から使われていた民族の言語の一つのであるケチュア語を重視した教育活動を行っているのです。多くの場合、学校教育ではスペイン語で授業を行い、スペイン語が中心となることが多いですが、この学校では、二つの言葉、スペイン語とケチュア語を使用しています。



<伝統的な文化を持つ地域ロスチャンカスの子孫>

学校のある地域は言語や伝統的な文化も失われないように、様々な活動を行っています。コミュニティの名前は「Wayku」（ワイク）と言いケチュア語を第1言語とする人が多いのです。ラマスにはケチュア語を話す人口が多く、特にこの「ワイク」というコミュニティでは、伝統的な文化、踊り、民芸品に誇りを持ちながら伝統を守っています。

彼らはインカ帝国の前から存在していた民族、「Los chancas」の子孫であり、代々先祖から受け継いだ伝統を守っています。歴史によると、「チャンカス族」はインカ帝国の9代目のインカ「パチャクテク」と戦い、クスコの大国に負けてしまったため、クスコを出て、ペルーのアマゾン



森林地帯へと逃げました。彼らが辿りついた場所が今の「ラマス」なのです。

彼らの話す言語はケチュア語ですが、クスコで使用されるケチュア語とは異なり、独特ななまりがあります。

<歴史ある民族に CALO のドリルを>

そんな歴史のある民族、「ワイク」コミュニティに CALO の算数ドリルと絵本の支援をすること

ことができわたしたちとしても光栄に思っています。

配布後、学校長である「Nacira Lozano Savedra」先生から連絡があり、「小学校部の児童全員、そして各先生に教材が届きました。算数の勉強活動に大いに役立っています。また子どもたち

だけではなく、教員にも教育活動を継続し、学び続けることに大きなインセンティブとなりました」と話してくれました。

<校長先生からお礼の映像と報告>

校長先生からケチュア語とスペイン語でお礼の映像と報告書が届きました。

報告書の翻訳文、写真を紹介します。

また、十分でない学校施設への支援の要請も来ています。支援については、CALOの活動資金と活動目的を考慮して、例会で話し合っ決めていきたいと思っています。

ワイク 2022年4月29日

大阪ラテンアメリカの会の親愛なる友人のみなさまへ：

わたしは、あなたの組織であるCALO(Club de Amigos de Latinoamérica de Osaka)の寛大さと協力に感謝します。Comunidad Nativa WaykuのI.EN° 0800からの子どもたちの幸福に感謝します。

算数ドリルと絵本の寄贈は、子どもたちの教育と学習に役立ちます。同様に、わたしたち教師もまた、教育活動を継続する大きなインセンティブを意味するため、恩恵を受けていると感じています。皆様がわたしたちに送ってくださった寄贈は、わたしたちの初等教育の子どもたちとその学年の教師に与えられました。

以下、スペイン語原文は省略します。

わたしたちの学校に協力支援して下さるというあなた方CALOの存在を知り、喜んでいきます。長年様々な活動をしてきたCALOの協力者でもあり続けたいと思っています。

わたしたちの教育機関のプリンターやコピー機に印刷やコピーの問題があり、最終的に電源が入らないため、学生の日常業務を遂行することが困難であることを子どもたちに知らせることになり



ます。

ご存知のように、もう1つのニーズは、子どもたちの使用により緩んできたバスルーム（トイレ）の付属品です。



また、蛇口とエタニットタンクの屋根に液体石鹸ホルダーがありません。

わたしたちは、学校に来る子どもたちの朝食と昼食を提供しなければならないのですが、キッチンスペースとキッチンが状態が悪く、彼らのために食事を準備するのが困難になっています。

以上のおりです。できるだけご支援を賜りますよう、心から、よろしくお願ひ申し上げます。

教育機関№ 0800「ルイス・アルベルト・ブルゾーネ・ピザロ」948690292

(INSTITUCIÓN EDUCATIVA Nº 0800” LUIS ALBERTO BRUZZONE PIZARRO” 948690292)



Happy Summer

CALO の例会予定

8月20日（土）14:00~

9月17日（土）

*急に開催できない時があるので、新しく参加いただく方は一応お問い合わせください。（09087540059 梶田まで）

例会からの報告

今年に入ってからコロナ禍の影響を受けてあまり活発に例会を持つことができなかったことは残念でした。

- 1月19日：開催できませんでした。
- 2月19日：開催できませんでした。
- 3月19日：久しぶりの例会。マスク、換気で窓やドアを開け放って。今後の活動についての話し合い。4人出席1人 on line 参加
- 4月16日：例会なし。
- 5月21日：6人参加1人 on line 参加
- 6月18日：体験希望者 K さんを交えて今までの活動の説明など。算数ドリルや翻訳絵本の現物を見ていただきました。出席4人 on line 1人。
- 7月16日：例会なし。

あとがき：初めてあとがきを書くことになりました新代表のオチャンテ・ロサです。コロナ禍が続くなか、毎回例会を開くことができませんでした。少しでも活動の報告をできればと思って、今回のアミーゴスをまとめました。アミーゴスを通して皆さんと繋がっていただければと思っています。

心では皆さんと繋がっています～！

まだまだ暑い日が続きますので、お体にはくれぐれもお気を付けてください。

今後のご支援、ご理解のほどよろしくお願ひいたします。（R）